

全
日
會
報

阿部憲一

全日の紹介

プランとその活動

の同時には撮影から引伸しまで
具體的知識として、作業の過程を通
て明らかにしていくために書か
れたものである。また「サークル論
は松平村武、武者小路実篤の「
宮沢賢治の『農民芸術概論』」
須他人協会、「山形学校」など
をはじめ、数多あったサークル
運動を徹底的に説明すること
により、では今サークルはどうあ
らうのかを解明していくものであ
る現在の全体主義や多教派の裁断
に脱皮しうるべく性質をもつもの

われわれの問題

その展開

○図書設立
写真集、詩、小説、雑誌、新
等を集め、日常のサークル活動
キャンペーン活動等の資料をつ
る。またわれわれが活動をして

いつたらよいのかをより明確にするために、世界の写真家の写真時代別、作家別等に区分けし、家の文章、批評も加え、写真家トをつくる企画もある。

以上が本年度の主要なプランである。このプランを実行していきながら、われわれの活動をより一層、展開させなければならぬ。

してゆくもの
多救決の裁断

世界20数カ国に進出
好評のフジカラー

日曜日に消費されるフジカラーは1日
になんと300万カット。湿気に強い日本の
気候条件に耐えて、美しいカラーをいつ
までもたもつすぐれた品質こそ、最高の
人気を誇るヒミツです。世界20数カ国に
進出して好評を博しております。



カラー時代をリードする

フジカラー R100

35mm 12枚撮490円(現像料別)他各種

富士フイルム

我々は、三月から四月にかけて全国において自らのあり方を決定的に変えてゆき、サークルの意味をも築きあげるべく行為をおこなした。写真という確固と定着した思想を、自らの問題として主体的に明らかにしてゆく、写真と自己との弁証法と参加した人たちの対話は、自己の枠を打ち破き、我々を現実の状況にひきずり下したのだ。写真を前にしよる意味を明らかにし自らを決定しゆくという自らのと激烈な闘いは、それを闘い抜いた人たちのなかに確かなものを築きあげた。そして今も我々はその闘いのなかにいるのだ。確かなものを、形骸と化さぬよう、合宿で築きあげた我々の原点を解明し、方向づけてゆかなければならないだろう。

○写真とは個別的であり、ある程度の普遍性をも必要としないのか
○命(う)。

私も何故、写真をすべきでないのか。このことは、すい分長い間考えたことであるが、そもそも始まりは麻倉・ホーリング等に誘われると一緒に行くことが多くなったから、それだけならば問題は

現在のわがサークル、否、私の問題点は、写真が理解できなくなつてゐる。写真とは己が生きてゐることを確認であり、「生きてゐる」と密着してゐない写真は無意味であるといふことは皆、理屈上正しいのである。が、そのよき写真とは何か、如何に見分けようかといふところでわれわれは迷ひ詰まり、「状況1965」

それにしがみついているのだらうか、これが第一の問題として提起したのである。部会等を優先させるのは、義務感からなのだろうかそれともいはいえない。しかしそれ以上に私の心を捉へているものがある筈なのだ。種々の遊びは確かに面白い。しかし、それだけだ。今の私にはもっと必要としていることがある筈である。種々のことについて、ガッチリと組合

することがなくなり、また、写真について以前程の興味を持たなくなつてしまひ、写真について考えざることを敬遠するようになってしまつたからである。しかし部会等の時にはそれ等よりクラブが優先してしまつたのである。ならば己れは義務感より部会等を優先させてゐるのであらうか、ならば全く面白くない。しかし、私はクラブを写真とせる気はしない。なぜ

よひ、宋直、リノ等も集

かに向ひ、だがそれで満足を來ない、様々のごとについて討論し合い、また、自己を見失つてしまひ、それは絶対的だ。それが出来るのは、現在の私の環境に於いて写真しか存在しない。だからのうか—うか—多分そうであつた。写真は写真に代わる他のものでできた場所。写真には、写真をすてきことが出来るのだから—わからない。来るのだから—わからない。のを吸収する為に、たとえそれが毒を吸収したとしても、それはそれなりの効果がある。

その2

(野村 和義)

今回の写真チェックから始まる合宿は、私に長い間投げかけていた現在までの疑問について、「それをどう見、どう対処していかなければならぬか」という物事の方向を教へてくれた。そこで自分

中部会館は自分自身にとって、
まさに再認識の場としてあり得た
のであった。それは、写真の見方
・写真に対する態度のあいまいさ
によって、今までの活動の微弱が
幾度か暴露され、自己の概念は形
だけの存在にしかあり得なかった
ことに気がさるを得なかった。

「写真」を自己の問題として定着
させ、展開して行こうとする活動

は、一瞬のうちに自己内部の片角
に面着してしまつたのである。それ
はまさに、安楽な存在位置である
と同時に、そこには現実のあらゆる
ものとはいひさいかけ離れた自己
陶醉の現象が、生じてくることに
着眼しなければならなかった。

約二、〇〇〇枚の写真を見たとい
う行為は、自分自身・また二人
一人に何を意味しているのであっ

写真を視覚で捉える。そしてこの作業をくり返して、結局視覚で終る。そこには絵画から見ようとする態度（表面的な技術とか、……むしろ、好き嫌い）が優先し、そこから自己を変革しうる創造の起点を見い出すことがまったく不可能となって、自分自身の創造活動は自己のわくに孤立していくのであった。このような状態は、個性とはほど遠いものであるはず

であらう。ここに存在する私、一人一人をしてサークル自体の活動が、もっと強力な一本柱として、腰を据えて行かない限り、微弱性から脱皮することは困難であらうと思われた。

中部合宿で実際問題として感じ並べられた四枚の農村の写真について、三人が感想を述べた。

——深刻さがない、都会の人がちよつと農村に行つて撮る写真だ、仕事休みのどかな状態が良く出てゐる。シャッターチャンスが良（一枚の楽しさに笑つてゐる写真に對し）等々。

結局、この楽しそうな写真もいけなというのではない。しかし……といつて別の一枚の写真が出された。それはすしりと雪みのある手応えを感じさせてくれる内容をもつていた。

しばらく皆がそれに見入つた。総づらを知つたとする、二三の声が上つた後、作者は農家の息子だといふのを聞いたからなのか、農家の息子だから自分の問題としてとらえる事が出来、良い作品が出来たのだなつという意見が出た。

確かにそれはいえると思う。どんなに苦しんでいる人の様子を聞き

[illegible]

キャンペーン

状況1966

全日本学生写真連盟

3年ほどまえから
およそ 従来の“学生写真”の概念からほどとおいところから
写真を 自分の存在をかけた問題として
考えていこうとする
かなり はげしい 徹底した 運動 がはじまった

現実の総体 にむかって
はっきりと 自分自身を位置づけ 写真を位置づけ
現実のもつ さまざまな意味や そのありようを明
らかにしていく作業を
ひとりひとりのなかで また サークル活動のなかで
累積していくことは
容易なものであろうはずはない

その行為を あえて われわれは開始した

ここで紹介される キャンペーン 状況1966の内容
(部分)は'65にはじまり'66 '67……と
継続してすすめられる われわれの運動の 一つの重
要な活動の結果であり とらえた そのときの
われわれの 現実の総体 をあらわす



昨年12月、全日に写真同人社より「カメラ時代2月号」の原稿を依頼されました。しかし残念ながら、「カメラ時代」が休刊になりましたので、ここに掲載します。

頁 内容

- 87 序(掲載)
- 88 写真(状況1965)
- 89 写真(状況1965)
- 90 引用文(状況1965)
写真で何が出来るか
(P 186~188)
- 91 写真(状況1966)
- 100 文章(方法の問題)
(掲載)
- 102 写真(状況1966)
- 105 写真(66その後)
- 106 写真(66その後)
- 109 写真(66その後)
- 110 引用文、月表(掲載)
- 111 対談(掲載)
- 112 対談(掲載)
- 115 対談(掲載)

掲載写真

- 1,2 状況1966より
- 3,4. 66その後より

そして現実をめぐって……

A 連盟は、全国八地区で構成されているんだけどこれは、十数年前にすでにできたものなんだ。当時、大学、高校のサークルが各地区ごとに地区の連盟をつくり、更に全国的な組織にしたらしいね

B だげと運動と呼べる運動がはじまったのは、3年まえからだと思ふ、そして、状況1965というキャンペーン活動がはじまった。

C 状況1965は、写真を撮る者にとって原則である、自分にとつて写真の意味を考え、更に自分の中に写真を、彼が生きるといふことと等価値なものとして位置づけなければ決して写真は、実



'66年にはいって われわれの運動体が どのような質量をはらんだものとなりえたか
キャンペーン状況1966の活動は その一つの集中的な表現であり 表示であることはいうまでもない
さまざまな数学的根拠をあげながら その発展をあとづけることは容易である しかし
そのようなところに当面すべきわれわれの問題のあるはずはない
さて 現在われわれの運動のはじめてほう着しえた一つの重要な課題がある
——それは方法の問題である
——「大木はナイフでけずるべきか」(いかにけづっていることがたしかであり けづる意志がはげしくとも——「大木はナイフでけずるべきか」)このほう着こそなによりもわれわれの運動の意味と 到達しえた現時点をあらわす 端的な表象というべきであろう



キャンペーン

状況一九六六

もし、われわれがこの現実を直視したならわれわれはその様々なことをみてゆくだろう。それは一つの作業をわれわれに要求するだろう。そして、もしわれわれが生きる方法の一つとして写真を選ぶなら、またそれが自分の全重量をかけるだけの重みのあるものなら、われわれの直視は映像という媒介によって全体化されるだろう。方法が書くことである人々にとっては、現実が文章のなかに、また、年表であるなら現実には日附けのなかに、それらの紙面をその様相でうめつくすだろう。それらすべてに対応し、選択の結果が、「状況一九六六」である。これは、その全体化としてまた、一九六六年のあの現実に対峙したわれわれ自身に他ならない。

キャンペーン状況一九六六の完刊が遅れ、各地区の皆様にも多大な御迷惑をおかけしていることを深くお詫び申し上げます。

本部キャンペーン委員会

フランシヨ/栗津則雄他訳 1500円
文学空間

パシユラル/沢沢孝輔訳 580円
蠟燭の焰

ラン・バルト/森本和夫訳 500円
零度の文学

言語・文学への独自のアプローチ

現代思潮社 東京・文京・春日1-6 振替/東京 72442

- 吉本隆明 580円
異端と正系
近代批評史を切開する基礎
- 吉本隆明 600円
擬制の終焉
自立思想の出発を宣言する
- 谷川 雁 600円
原点が存在する
思想の価値転換を告げる詩論
- 内村剛介 750円
呪縛の構造
スターリン批判の原点は?
- 森崎和江 540円
非所有の所有
新しい女の戦いの原理を示す
- 沢沢孝彦 650円
神聖受胎
根源的破壊のクリティーク

かかいて、かんじんの問題に全く触れてないし、はりきっていうことには、全く勝算だし、処置ナシなま B もっと僕たちの運動の意味ををとなえた上での発言を期待したかった。

C 存在の仕方という問題だけれど、大島氏の文面から感じるのは、湯島氏が、全く僕たちと同次元にいるかということはおそらく彼信じてられないと思う、何故なら、彼はひとりで存在してるからだと思ふ。たったひとりで世の中に存在していると思っているし、そういふ人あり方しか、実は信じられない人いなか、そういう思想しかもと得ない人なんだうな。

B 僕たちの運動が、一人一人

裏においてそれがなされなければならぬということ、写真の世界では、たいていは「方法」といって結局は技法の問題じゃないことがほとんどだが……

C 塙谷雄高や大島渚の生き方の問題、そして僕たちの生き方の問題は、「一人人がやっている」とこと、サークルの一人がやるということと端的に言えばこう言い方方向になると思うけど、僕の感じるのには一人で生きてる人に必ずついてはいるのは、杜絶した個人としてしか存在しえなかった思想・現実に的じゃなくというか、なにが人員体から具体へものを感ずる。塙谷雄高が衝撃力を考え、自閉の姿勢を肯定していくことも、結局、勢いを肯定して行くことも、衝撃力をも動かせるものは、決してそんな衝撃力じゃない、もっと、ビッチリと現実にく密着したところまでを要する……

A 塙谷さんのいう見者の思想というのは、本来、見るものが具体的な意味をもつ場合のみ肯定できる、ということは、それ以外のときは拒否すべきものだと思うし、当面している個別的な問題に対して、どう取り組むか、それはまたにかという問題が粗らかにとなるとき、はじめて、普遍性とか、リアルヒジョンという問題がそこにあることになる……

B 僕も授業料問題でわかったナルは振舞いの自由が制限されている。プロは、アマと比べれば表の場が開かれているとはいえず、それは表現の自由を締め殺すこととひきかえに得た発表の自由ではない。そこで心あるプロは、自由の構造を存在の基盤とするアマチュアリズムで内部を武装する。

自己矛盾を承知で、自由をめづつてプロとアマのシーソーゲームが続く。

東松
前回のクラウディア・カルディナレのセリフを想い出してもらいたい。肉体とひきかえに獲得しようとした彼女の自由はまさにプロフェッショナルのものである。カルディナレは結局、束縛か

[illegible]

現在―技術というものをどのようにして捉えていけばよいか―という問題を追求

近日発売予定

発売元 株式会社 コパル

が、大事なことは、討論論議を進めていくというよりは、むしろ、新入生の発言の中から問題適出し、上述した議題に話を進めることが、最も大事なことになる。

〈新入生研究講座〉

例会・スライド講座・シンポジウムでは写真を取り巻く、自分の力に基づいたところで大きく、難に展開して行くために研究議を行うのです。ここでは新入生自身が、ある時代の内にあって、その時代の状況をヒッシリと担い、写真によって自ら存在を、生きものの意味をその時代に投げかけ、いった写真家の作品を全体的な真家の中から研究し、自らの写

もろぼくの心のようなものであ
る。王さまの涙さ、はかなさ、
すべてぼくの当時の心に対
こ。あの現実。第二次世界大戦。
そのさなか彼は死んだ。いや、彼
の行為論が彼を死なせた。真実

規制から逃れることは出
た積極的にその規制に立
たず、私達はその規制
間が生きる
動が歴史を

は私達と同じような一人一人の人間が生きたために企てた全ての活動が歴史を作り、今の状況を生出し

単に聞いて知識を増やすだけでなく、自分の写真に対する考え、自分の生き方について考

の既成の写真の掟えから脱
 〓写真〓現状況に対する人
 り方を提えて行く事が出来

キヤノンカメラ株式会社

